

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 23日は、低気圧が千島の東に進み、大陸の高気圧が日本付近に張り出す。日本付近は、24日にかけて西高東低の冬型の気圧配置となる。
- 25日から26日にかけて、高気圧が日本海から日本の東へ移動する。
- 26日から27日にかけて、低気圧が黄海から日本海北部付近を北東に進み、日本付近は気圧の谷となる。

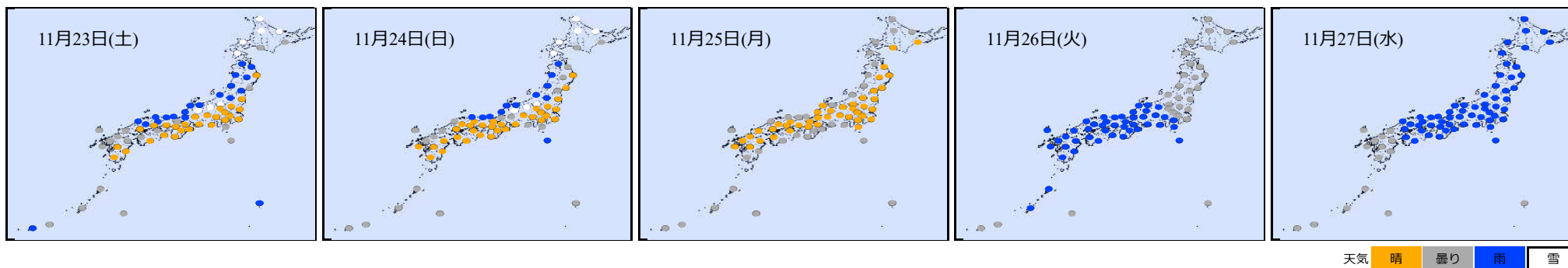
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 24日頃にかけて、発達する低気圧の影響で、北日本を中心に荒れた天気となる。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

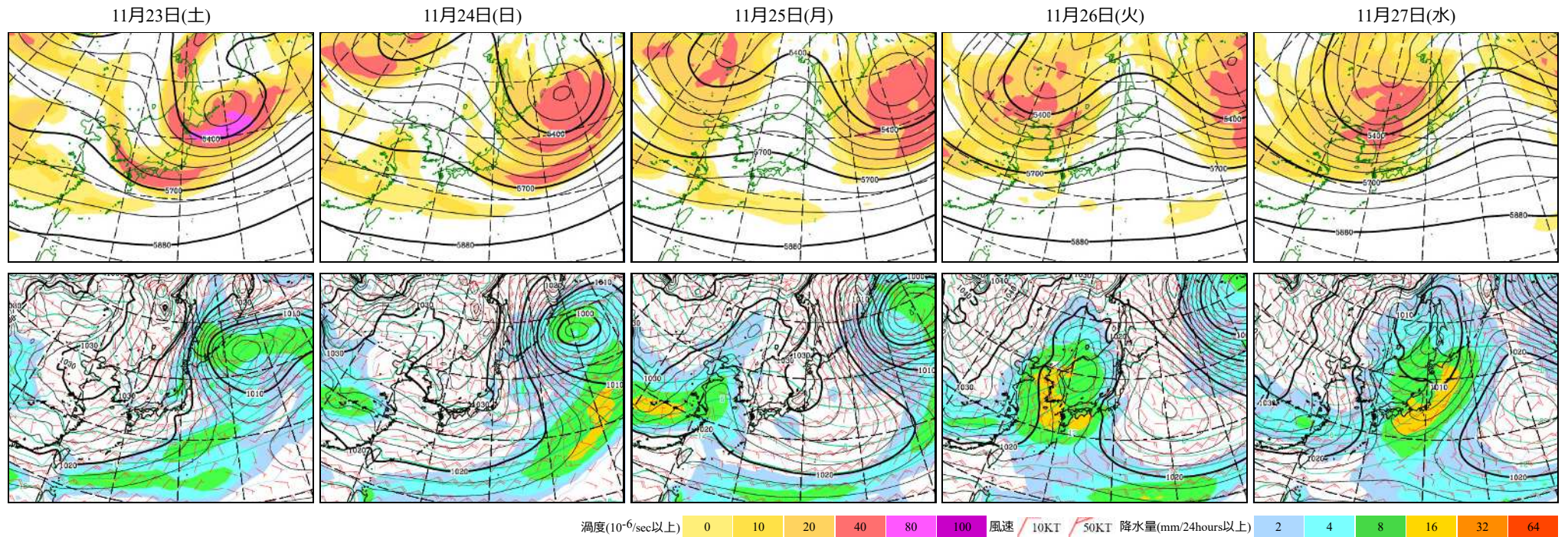
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

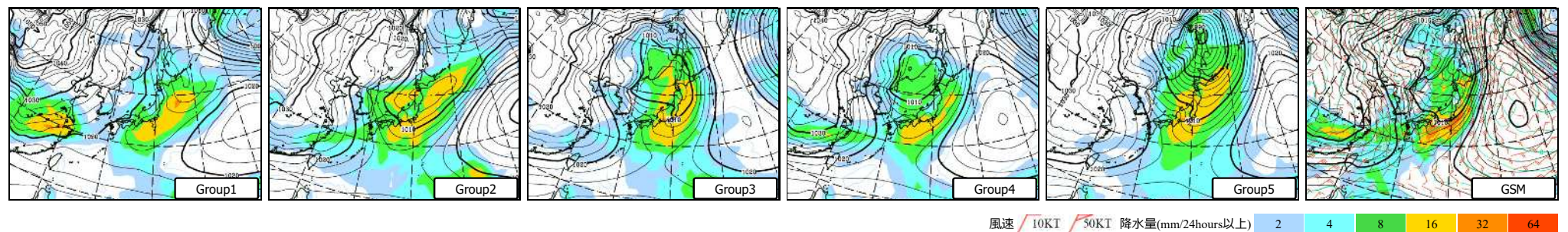


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく、雨または雪が降る日がある。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、23日から25日は晴れる所が多い。26日と27日は曇りや雨となる。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく雨が降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月27日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、24日以降は日本付近を進むリッジが強まり、動きは遅くなった。地上の気圧配置の予想は、26日から27日は日本海を北東に進む低気圧が明瞭になった。
- 各モデルともに24日以降は東西の流れが遅くなる傾向になった。26日から27日にかけて気圧の谷が日本付近に進む予想は揃っているが、低気圧の位置や気圧の谷の進みについてはモデル間の差が見られる。
- 27日の日本付近の低気圧の予想はモデル間の差がある。ENSの各メンバーの予想もばらつきが大きくなっている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。